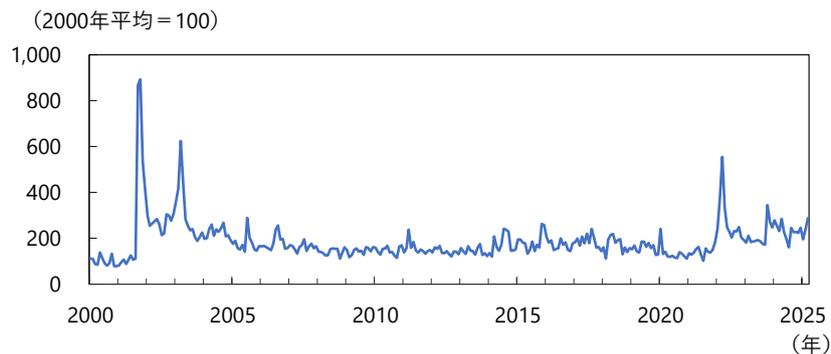


コラム1 主要国・地域の地政学リスク指数

第2章で言及したGPR指数を長期的に見ると、2001年の米国同時多発テロや、2003年のイラク戦争の開戦時に大きく上昇しているが、その後はロシアのウクライナ侵略が発生するまで、低水準での推移が続いていた（コラム第1-1図）。近年の主要国・地域のGPR指数について、当該低位安定期の水準を100として比較したものがコラム第1-2図である。ロシアのウクライナ侵略や中東紛争の地域と地理的に近接した欧州や中東の諸国では当初大幅な上昇が見られたが、当事国のウクライナやイスラエルを除けば、各国ともおおむね衝突開始前の水準に回帰しつつある。一方、東アジアでは、ロシアのウクライナ侵略や中東紛争の直接的な影響を受けないにもかかわらず、一部の国・地域で地政学リスクの高まりが示唆されている。台湾では、2021年の後半から徐々にGPR指数が上昇していたが、2022年8月に中国が大規模な海上演習を実施した際に急騰し、その後も下がりがきいていない。また、フィリピンのGPR指数は、台湾のように高止まりしているわけではないものの、南シナ海で中国船との大きな衝突がある度に短期的急上昇が生じている。このように、欧州や中東に加えアジアでも地政学リスクの高まりが意識されているのが近年の特徴である。

なお、2025年に入った後は、カナダ・メキシコのGPR指数が顕著に上昇している。これは両国からの移民や合成麻薬の急増が米国の「安全保障の脅威」になっているというトランプ政権の主張を報じる新聞記事が、GPR指数の作成方法上、両国に関する地政学リスクの高まりを示すものとして集計されているためと見られる。

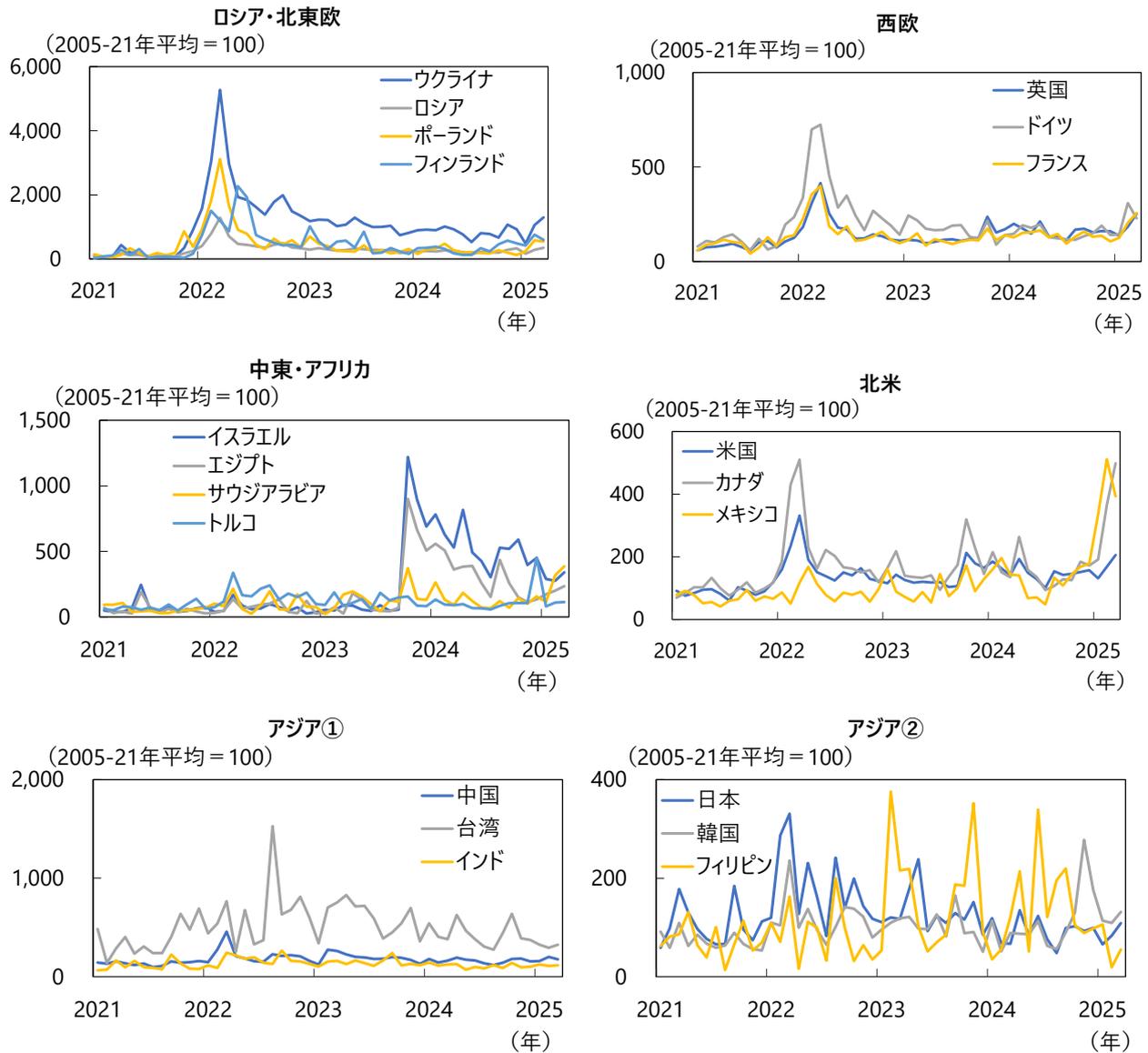
コラム第1-1図 地政学リスク（GPR）指数の長期推移



備考：2025年3月まで表示。

資料：Geopolitical Risk (GPR) Index から作成。

コラム第 1-2 図 主要国・地域の地政学リスク (GPR) 指数



備考：2025年3月まで表示。
 資料：Geopolitical Risk (GPR) Index から作成。